



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子

『ことばを大切にする子』に…

○「先生、消しゴム。」「先生、給食。」

といった言葉をよく耳にします。その都度、

「先生は、消しゴムか？」「先生は、みんなに食べられるのか？」

とか聞き返したりするのですが、なかなか、

「先生、消しゴムを貸してください。」「先生、給食の配膳が終わりました。」

と、一つの文として話せないのが現状です。日本語は便利な言葉ですからそれで通じるのかもしれませんが、果たしてそれでいいのでしょうか。



○また、「あほ」「ぼけ」「きしょい」「死ね」等の他に、体の特徴を冷やかすような呼び方や、失敗をはやし立てる言葉など、いわゆる『ちくちく言葉』が聞こえてくるともあります。言った方はその場限りかもしれませんが、言われた方はいつまでもいやな記憶として心に残ってしまいます。

反対に、「一緒に遊ぼう」「すごいね」「ありがとう」など、人から言われてうれしくなる言葉を『ふわふわ言葉』というそうです。相手の気持ちを考えた言葉づかいというものを今一度考えなければいけませんね。

おとなりの国、韓国に、『往く言葉が美しければ、来る言葉も美しい』ということわざ(?)があるそうです。

日本の、『売り言葉に、買い言葉』とちょうど反対になる言葉ですね。

美しい言葉のコミュニケーション。阿太小学校の中に広げていきたいと思います。



○最近読んだ文章の中に、次のような一節がありました。

言葉には、人が生きていくために重要な二つの役割があります。一つは、『感動を相手に伝える』こと。もう一つは、『用件を相手に伝える』ことです。

ところが、最近の大人は、第一の『感動』を伝えることが軽くなって、第二の『用件』を伝える方を重くする傾向が強くなってきたように思えます。そうすると、どうしても言葉数が増えて、『ああしなさい』『こうしなさい』という押しつけの言葉になっていきます。そして、その結果がうまくいかないと、『あれはダメ』『これはダメ』『何してるの、早くしなさい』という責める言葉となり、さらに自分の“怒りの感情”というおまけまで付いてガミガミ型になってしまうのです。

子どもへの話しかけで大切なことは、“温かな言葉・明るいうらみ・柔らかな言葉”です。われわれ大人は、言葉が相手に感動を与え、愛を伝えるためにあるという大切な本質を心にとめて、子どもたちと接していきたいものです。



日々子どもたちと接するわれわれ大人が、もっと温かな言葉・柔らかな言葉を使って、明るいうらみで、すてきな感動をいっぱい伝えていきたいものですね。